

# 「21世紀にふさわしい公園づくり委員会」 中間報告(案)

## 目 次

### 整備・活用の方針(案)

1. 計画の基本的事項	-----	1
2. 整備・活用の方針(案)	-----	2
3. 個別メニュー - の内容	-----	3
4. ゾーニングへの展開	-----	4

# 1. 計画の基本的事項

本公園の整備・活用の方針設定にあたって前提となる、「4つの基本方針」(都市計画公園決定の時に設定)、及び「基本的事項」は以下のとおりである。

## 4つの基本方針

[都市計画公園決定時に設定]

### 新しいニーズに対応した 都市公園

ユニバーサルデザインされた園路や広場の整備  
高齢者などにも親しまれる、花と緑と水を活かした場の創出  
広域的な防災拠点としての機能向上

### 青少年公園の歴史を活かした 都市公園

スポーツ、交流、野外活動施設等の整備

### 博覧会の理念と成果を継承する 都市公園

博覧会の理念と成果を継承する施設整備(環境学習施設等)  
自然エネルギーの活用やリサイクルを図る施設の整備

### 多様な自然環境を育む 都市公園

樹林や水辺の美しさを体感する場の創出  
環境に配慮した施設整備

## 基本的事項

### 基本ゾーニング

ひろばのゾーン 公園北西部の博覧会における主会場ゾーン  
もりのゾーン 博覧会における森林体感ゾーン

### エントランス

メインエントランス 北入口(東部丘陵線の公園駅設置エリア)  
サブエントランス 西入口(もりのゾーンへの入口)

### 駐車場

過去の駐車台数の実績値と東部丘陵線利用率(想定)を勘案し算出

### 管理棟

適切な位置に配置

### スポーツ施設

過去の利用状況と周辺地の整備状況などを勘案し配置

### 緑地保全

既存樹林(博覧会会場における回復緑地を含む)は原則として保全

### 旧公園から継続利用する主な施設

施設の設置目的を勘案して、下記施設については博覧会終了後も存続することを公園の基本方針としている。

- 温水プール・アイススケート場(\*1)、
- 愛知県児童総合センター(\*2)、
- 愛知国際児童館(\*3)

### 博覧会前整備区域

もりのゾーン 全域(日本庭園・林床花園・親林楽園)  
ひろばのゾーン 一部(自然体感遊具、こいの池デッキなど)

### 博覧会施設

パピリオン等博覧会施設は、博覧会終了後、撤去を原則としている。(\*4)

### 早期開園区域

旧公園から継続利用する施設、博覧会前整備区域、必要となる駐車場などの施設(一次供用区域)

- (\*1) 雨天時や年間を通じての利用ができる屋内型レジャー、スポーツ施設として平成6年完成。
- (\*2) 児童福祉法に基づく児童厚生施設であり、「21世紀を担う児童の健全育成を総合的に推進していく拠点」として、「遊び」を通じて「心豊かでたくましく活力のある子ども」を育てることを目的とする施設。平成8年度完成。
- (\*3) 昭和54年に開催された国際児童館イベントを記念し、児童の健全育成を目的とする施設。昭和56年完成。
- (\*4) 博覧会の理念と成果を継承する観点から、活用について検討する必要がある。

### ひろばのゾーン

緑や水にふれながら心と身体を解放して、家族や仲間と遊び、楽しむゾーン

- \* 水と緑を活かした多様な交流空間の整備
- \* 環境学習など博覧会の成果を継承していく機能の導入
- \* 家族や仲間と楽しむレクリエーション、健康づくりスポーツ活動空間の整備
- \* 広域公園としてふさわしい公園入口の顔づくり

### もりのゾーン

樹林や池など豊かな緑の中に身を置いて、自然とふれあい、憩い、学ぶゾーン

- \* 樹林地内での野外活動や四季折々の自然とふれあい、自然環境への理解を深める空間の整備
- \* 伝統と文化を学び、ふれあう日本庭園の整備
- \* もりのゾーンに生息する多様な生物や自然環境を保全・育成

基本ゾーニング図



## 2. 整備・活用の方針(案)

整備・活用の方針(案)は、「4つの基本方針」を踏まえ、計画策定に先立って実施された「懇話会」の意見、県民アンケートを参考として、「整備・活用の目標」を設定する。また、設定した目標を実現していくための「整備・活用の柱」、及びその具現化として「取り組みの視点と個別メニュー」を以下のように設定する。

### 4つの基本方針

〔都市計画公園決定時に設定〕

新しいニーズに対応した都市公園  
青少年公園の歴史を活かした都市公園  
博覧会の理念と成果を継承する都市公園  
多様な自然環境を育む都市公園

### 懇話会

〔平成16年5月〕

市民協働を実践できる公園  
幅広い世代の交流の場  
プレイリーダー・インタープリターの養成、  
防災教育の場  
環境先進県・愛知にふさわしい公園  
地域資源を活かしながらリラックスし癒され  
る公園  
パークマネジメント、公園経営に重心を  
置く

### 県民アンケート

〔平成16年6月〕

公園利用イメージ  
「自然の中の憩い・交流・気軽な健康づくり」  
(自然景観を楽しむ、のんびりくつろぐなど  
各々約3割)  
公園の将来像  
「のんびりとくつろぎ憩う公園」(約5割)  
「人にやさしい公園」(約4割)  
管理運営への参加  
「各種イベントへ協力」(約3割)

### 整備・活用の方針(案)

#### 【整備・活用の目標】

昭和45年の開園以来、多くの県民に親しまれてきた愛知青少年公園は、「愛・地球博」の主会場を担ったことを契機に、博覧会后、これまでの公園の歴史と博覧会の理念と成果の継承を基盤として、21世紀にふさわしい広域型の都市公園として新生する。

新しい公園は、**健康で精神的な豊かさとしさに満ち、県民と共に成長・進化し続ける21世紀型の公園** ~サステナブル・パーク~  
を目指す。

サステナブル・パークでは、人々は広大なフィールドに身を置いて心と身体を解放し、楽しさを体感しながら、家族、仲間、地域、自然、環境などとの関係を再構築し、より良い関係を維持していく。そして、それは自分らしい生き方を大切に、豊かさを実感できる県民生活の実現への取り組みとなるものである。

「サステナブル」は「持続可能な」という意味であり、主に環境面において「サステナブル・ディベロップメント」(=持続可能な開発、永続的な発展)という言葉が使われているが、ここでは、「サステナブル・パーク」を「県民と共に成長・進化し続ける公園」といった広い意味合いを含むものとして捉えることとする。

#### 【整備・活用の柱】

##### 楽しく利用、親しまれ、 安心・安全な暮らしを守り育てる公園

広々とした活動空間の中で、くつろいだりレクリエーションや健康づくりの活動の場として県民に楽しく利用、親しまれるとともに、安心・安全な暮らしを守り育てる公園を目指す。

##### 環境との共生を学び、日常生活につなげる公園

自然とのふれあいや環境学習などにより環境との共生を学び、地球環境を各個人で身近に捉え、持続可能な社会にふさわしい日常生活につなげる公園を目指す。

##### 県民参加と多様な交流で成長する公園

県民、企業、近隣の大学、行政などがパートナーシップにより参加、協力、触発しあうとともに、多様な交流・体験を通じて成長していく公園を目指す。

#### 【取り組みの視点と個別メニュー】

##### 1) 子どもから高齢者までみんなに楽しく親しまれる

快適な環境の中で健康づくりスポ - ツやレクリエ - ションを楽しむ世代間交流やにぎわいのある公園利用を推進する  
日本の伝統文化にふれ、楽しむ  
地域との連携を図り、公園の利活用を増進する  
最新技術や博覧会の成果を活用し、公園づくりに活かす

##### 2) 環境と共生し環境学習活動の拠点とする

生活環境系、自然環境系を合わせた総合的な環境学習活動の拠点として楽しく学び、体験し、実践につなげる  
環境負荷軽減に配慮する  
緑の育成と保全を図る

##### 3) 広域的な防災活動支援拠点とする

中核防災活動拠点に必要な機能を整備する  
防災体験・教育訓練の場づくり

##### 4) 県民の参加・協働により、みんなで公園を育てる

県民と行政のパートナーシップによる公園管理運営への取り組みを推進する  
県民の協働による各種プログラムを実践する  
県民の協働への情報発信等により、県民の参加意欲を醸成する



### 3. 個別メニューの内容

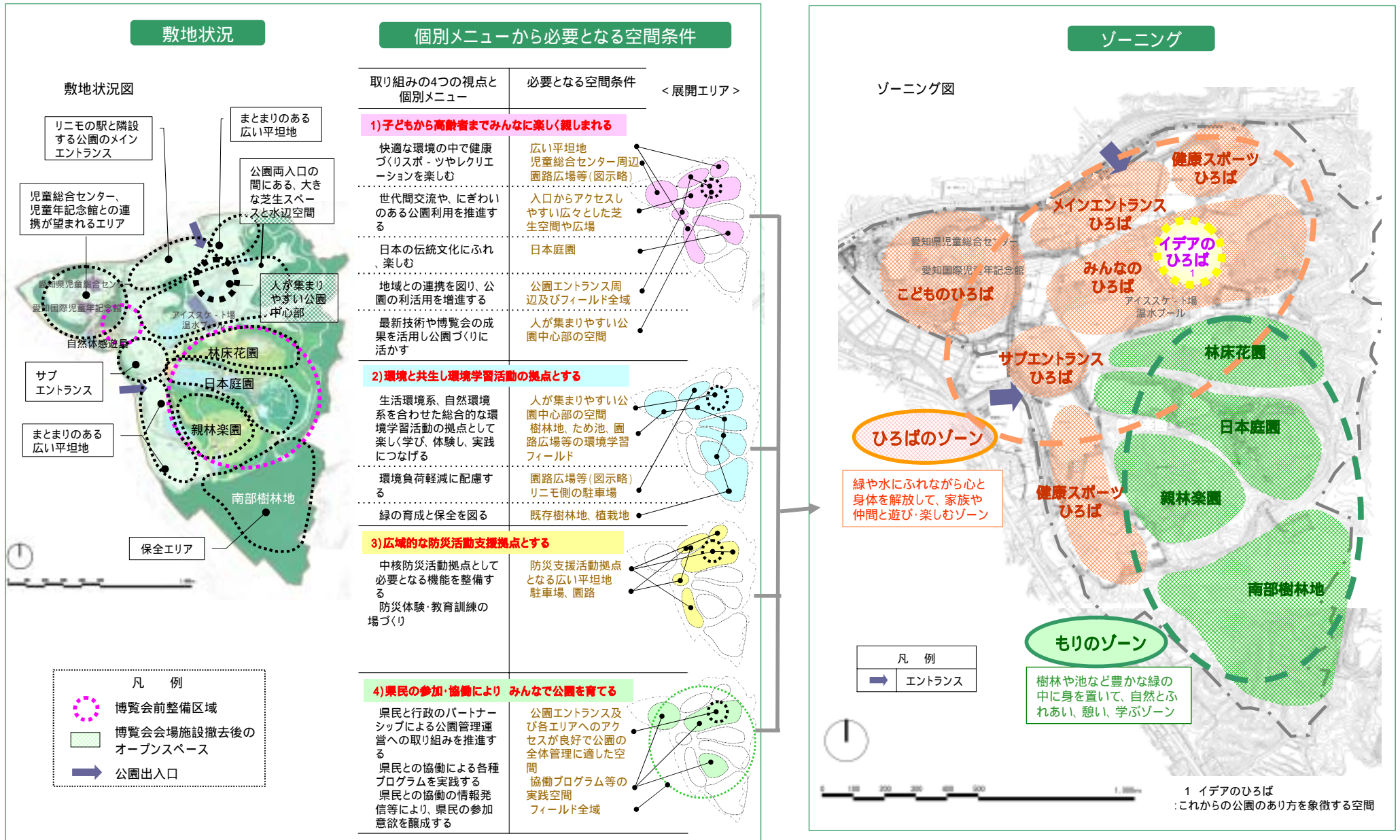
4つの視点の個別メニュー毎における具体的な展開方策、及びその方策を展開するのに必要となる空間条件、取り組みに当たって想定される主体は以下のとおりである。

個別メニューの内容一覧表

取り組みの視点	個別メニュー	展開方策	必要となる空間条件	取り組みの主体	
				県民と行政のパートナーシップ(県民協働)	行政(県民参加)
1) 子どもから高齢者まで みんなに楽しく親しまれる	快適な環境の中で健康づくりスポーツやレクリエーションを楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康づくりスポーツ・レクリエーション施設の整備</li> <li>こども空間の充実</li> <li>ユニバーサルデザインの推進</li> <li>季節毎の景観を楽しめる整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとまりのある広い平坦地</li> <li>児童総合センター周辺のフィールド空間</li> <li>園路広場等</li> </ul>		
	世代間交流や、にぎわいのある公園利用を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民参加プログラムやイベント開催</li> <li>活動や交流の場の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2つの入口からアクセスしやすい広々とした芝生空間や広場</li> </ul>		
	日本の伝統文化にふれ、楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本庭園での伝統と文化に触れ合うプログラム・イベントの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本庭園</li> </ul>		
	地域との連携を図り、公園の利活用を増進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>周辺の大学、企業、小中学校、NPO等との連携</li> <li>リモとの連携を推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園エントランス周辺のアクセスしやすい空間及びフィールド全域</li> </ul>		
2) 環境と共生し環境学習活動の拠点とする	最新技術や博覧会の成果を活用し、公園づくりに活かす	<ul style="list-style-type: none"> <li>博覧会のソフトプログラムやイベントの継承</li> <li>企業との連携を図ったモデル展示の場、情報発信の場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人が集まりやすい公園中心部の空間</li> </ul>		
	生活環境系、自然環境系を合わせた総合的な環境学習活動の拠点として楽しく学び、体験し、実践につなげる	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な環境学習活動拠点機能の導入</li> <li>環境学習プログラムの展開</li> <li>企業との連携を図った先進環境技術紹介の場、小学校等の環境学習の場として活用</li> <li>環境学習ネットワークの形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人が集まりやすい公園中心部の空間</li> <li>樹林地、ため池、園路広場等の環境学習活動ができるフィールド</li> </ul>		
	環境負荷軽減に配慮する	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境負荷軽減型技術を活用した整備(建設時)</li> <li>環境負荷軽減に配慮した運営管理</li> <li>パーク&amp;ライドの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園路広場等</li> <li>リモに隣接する駐車場</li> </ul>		
3) 広域的な防災活動支援拠点とする	中核防災活動拠点として必要となる機能を整備する	<ul style="list-style-type: none"> <li>救援部隊の輸送機能の確保</li> <li>非常時における防災活動支援機能の維持</li> <li>救援活動拠点の確保</li> <li>臨時ヘリポート確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災支援活動拠点となる広い平坦地</li> <li>園路、駐車場</li> </ul>		
	防災体験・教育訓練の場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民の防災意識向上につながる情報を発信</li> <li>防災体験イベント、教育訓練プログラムの実施</li> </ul>			
4) 県民の参加・協働により みんなで公園を育てる	県民と行政のパートナーシップによる公園管理運営への取り組みを推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園整備・活用に関わる県民参加・協働の基本枠組み検討</li> <li>県民参加・協働のノウハウを開発し、他の県営公園へ展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園エントランス及び各エリアへのアクセスが良好で公園の全体管理に適した空間</li> </ul>		
	県民との協働による各種プログラムを実践する	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民参加のもとに成長する持続可能な公園づくり</li> <li>公園整備の進捗に合わせて各段階で協働プログラムを実践</li> <li>インタープリター、プレイヤーなど指導者の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働プログラム等の実践空間</li> <li>フィールド全域</li> <li>人が集まりやすい公園の全体管理に適した空間</li> </ul>		
	県民との協働の情報発信等により、県民の参加意欲を醸成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園情報発信・意見募集機能の充実</li> <li>公園に興味ある県民の情報交流を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人が集まりやすい公園の全体管理に適した空間</li> </ul>		

## 4. ゾーニングへの展開

公園の敷地状況、4つの視点における個別メニューから必要となる空間条件を基に、ゾーニングを行い、各エリアの性格付けを整理する。  
配置された各エリアは利用面、景観面など相互に関係し合っており、単一ではなく複合的な機能を有した空間として構成し、公園の整備・活用を展開していく。



各エリアの主となる性格と利用イメージは、以下のとおりである。

各エリアの性格と利用イメージ

名 称	各エリアの主となる性格	利用イメ - ジ	
	みんなのひろば	水と緑の中での 多様な交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芝生広場のような多目的利用が可能な開放的な空間で、子どもから老人までの幅広い公園利用者が、多様な交流を賑やかに展開</li> <li>・各種イベント・プログラムの展開、県民協働による公園づくりプログラムの実施、公園管理運営拠点</li> <li>・野外活動、サステイナブル体験、キャンプ・ディキャンプ利用</li> <li>・非常時における防災支援活動拠点として利用</li> </ul>
	こどものひろば	子どもの遊び・体験 ・レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの遊び・体験・レクリエーションの場として利活用</li> <li>・愛知県児童総合センター、愛知国際児童館との連携</li> <li>・自然エネルギーを活用した遊具や施設、利用プログラムの導入</li> <li>・県民協働による子どもを中心とした公園づくりプログラムの実施</li> </ul>
	健康スポーツひろば	健康づくりスポーツを 家族や仲間と楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑に囲まれた広い空間、環境を活かした県民の複合多目的な健康づくりスポーツの場（サッカー、野球など）として利用</li> <li>・利用メニューは、旧公園の利用実態や周辺分布状況を考慮し決定</li> <li>・非常時における防災支援活動拠点として利用</li> </ul>
	メインエントランス ひろば サブエントランス ひろば	エントランス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園のエントランスらしい華やかさや環境共生への配慮を考慮した空間</li> <li>・公園全体案内や情報提供</li> <li>・リコモ公園駅や駐車場からの安全で快適な利用</li> <li>・公園の全景を見渡することができる（メインエントランス）</li> <li>・パーク&amp;ライド（メインエントランス）</li> <li>・防災時の緊急車両駐車スペースとして利用</li> </ul>
	アイデアのひろば （コアひろば）	コアとなるテ - マ展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博覧会の継承として、モニュメンタリ - な場所、これからの公園のあり方・理念を象徴する空間</li> <li>・博覧会成果を継承、例えば資源循環などへの取り組みを関係機関や団体、企業、市民と協働で実践</li> <li>・複合交流体験機能を持たせた施設の設置 （公園管理運営機能、環境学習機能、サステイナブル技術展示、博覧会の理念の継承、防災支援機能など）</li> <li>・博覧会で培われた交流の場としての継続的活用</li> </ul>
	林床花園	四季折々の樹林風景 を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサル園路を利用して誰もが森に入って四季折々の風景を楽しむ</li> <li>・環境学習の場として利用</li> </ul>
	日本庭園	伝統文化とのふれあい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化とのふれあい拠点として多面的に利活用</li> <li>・鑑賞会、茶会、月見会、お花見会等、各種イベントを、関係団体や県民等とのパートナーシップによる開催を検討</li> </ul>
	親林楽園	自然学習・野外活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹林地内での活動を通じて身近な自然にふれあい、学習し、自然環境への理解を深める場として利用</li> <li>・フィールドセンターを活動拠点として利用</li> <li>・リサイクルセンターでは刈草・剪定枝を堆肥化し、園内リサイクルを実践</li> </ul>
南部樹林地	緑地保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹林地の保全を第1に考えるエリア</li> <li>・観察会等の環境学習プログラムとの連携により、必要時に開放し、自然学習・教育活動を実施</li> <li>・インタープリター活動と合わせての利用を検討、エコツアーの実施など</li> </ul>	